

設備はあっても・・・ 一人での対応は厳しいですよ

公共交通機関での子供への対応について様々なことが問題となっていますが、特急列車の多目的室利用についてネットニュースで取り上げられていました。

「授乳したいのに…多目的室が使えない」特急列車でなぜ？

新幹線や特急列車にある「多目的室」という設備は、授乳などに使うことができます。ただ、子どもを連れて特急に乗ったという人からこんな情報が寄せられました。

「多目的室が使えない」何が起きた？

乗車中、授乳やおむつ交換をしようとした女性が多目的室に向かったそうです。女性は車掌が巡回してくるのを待ちましたが、なかなか来ませんでした。多目的室は、ふだんは鍵がかかっている、利用したい時に車掌に声をかけ、そのつど、鍵を開けてもらう仕組みです。

乗務員室まで行き「多目的室を使わせてほしい」と車掌に伝えたといいます。しかし車掌からこう告げられました。「ここから離れられないので、多目的室の鍵を開けられないんです」女性は多目的室を使うことを諦めざるをえませんでした。

JR東日本は私たちの取材に対し「機器類の一部に不調が見つかり、対応する必要があった」としています。

この列車には車掌が1人しかおらず、ほかに対応できる人はいませんでした。

「授乳・おむつ交換は親にとっては一大事」

小さい子どもを持つ親の受け止め

- ・授乳するときは座席で夫に壁になってもらって周りから見えにくいようにします。
- ・どうしてもおむつを替える場所がなければ、ベビーカーの上で替えることもありますよ。だって、我慢してとは言えませんからね
- ・多目的室でいえば、ボタンで車掌さんと呼ばればありがたいですね



記者 小さな子どもを持つ人にとって、さまざまな困難がある公共交通機関での移動。せつかくある設備ですから、少しでも使いやすいものにしてほしいと思いました。

(NHKNewsweb 9/2より抜粋)

特急列車や新幹線の車掌が1人乗務となって久しいですが、検札などは無くなったとはいえ、やらなければならないことは数多くあります。「設備はあっても使えない」「列車には車掌が一人しかいなく対応できなかった」とされていますが、子育ては社会的な役割でもあり、公共交通機関の大事な役割として、対応できる環境を作ってほしいものです。